

C-1 指導案

公民科指導案

指導者 石川県立羽咋高等学校・教諭

指導日時・教室 平成19年 4月12日(木) 5限目 教室名 12H
対象生徒・集団 普通科1年生 39人 (内訳 12H 39人)
科目名 現代社会(単位数 2)
使用教科書 「現代社会」(東京書籍)

1 単元名 第1部 現代に生きるわたしたちの課題 ①地球環境とわたしたちの未来

2 単元の目標

- ① 地球環境問題の要因について考えることにより、人間の様々な活動が自然環境への負荷を増大させ、地球環境の汚染や破壊が問題となっている事を理解する。 【思考・判断】
- ② 地球環境問題の解決に向けて国際的な取り組みや協力が不可欠であることを認識し、同時に、自分達の生活の在り方について考える。 【知識・理解】
- ③ グループ学習を通して、円滑なコミュニケーション能力の育成と他者理解・自己理解をはかる。 【関心・意欲・態度】
- ④ 調べ学習やまとめ作業を通して、主体的な学びの態度や自己表現力のスキル向上をはかる。 【資料活用の技能・表現】

3 指導にあたって

(1) 生徒の状況

高校入学間もなく、複数の中学校から集まってきた生徒達には、まだまだ緊張した表情が伺える。小・中の活動でグループ演習に慣れ親しんでいる所に注目し、ブレインストーミングを用いたグループ活動を行い、良好な人間関係を築きながら、生徒自身が追究可能な課題を設定し、主体的な調べ学習を行わせたい。

(2) 指導方針・方法

この単元を現代社会を学ぶ導入に位置づけ、学習の動機付けや学び方の習得をめざす。地球環境問題という大きなテーマの中で、生徒自身が追究可能なテーマをたてるためには、様々な方法を用いて手がかりを得させる事が大切である。そのためにブレインストーミングやKJ法的手法を用いて生徒が多くアイデアを出し合い、絞り込んでいく方法を用いる。

(3) 教材選定の理由

環境問題は、小・中学校でも取り扱われ、生徒自身の身近な問題としてとらえられるため、これまでに得た知識・理解を通して探究的問題解決的な学習が可能である。また、メディア等でも取り上げられ、生徒達の関心も高く、自分達の今後に照らし合わせて考察することが可能であろうという視点からこの教材を選定した。

4 単元の指導計画(総時数2時間)

第1時 地球環境の破壊要因について考える

－ブレインストーミング・KJ法による分類－ (1時間)・・・本時

第2時 地球環境の破壊要因について考える

－各自が決定したテーマについて調べ考察する－ (1時間)

5 本時の指導と評価の計画（第1時）

(1) 本時のねらい

- ① 環境破壊の要因についてブレインストーミングやK J法を用いて多くの意見出し合い、絞り込んでいく。【思考・判断】
- ② グループ活動に積極的に参加し、他者の意見について比較・検討する。【関心・意欲・態度】

(2) 準備・資料等 付箋 模造紙 マジック

(3) 本時の展開

場面	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入	テーマの概要	今回のテーマ、活動について知る。	地球環境破壊の要因について考察することを伝える。	
展開	ブレインストーミング・K J法	<ul style="list-style-type: none"> ○ブレインストーミング・K J法について知る。 ○ブレインストーミングによりアイデアを列挙する。 ○K J法によりアイデアを絞り込む。 ○ランキングにより、環境破壊の要因について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の方法・ルールについて説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・質より量であること ・他者を批判しないこと ・他者のアイデアを模倣してもよいこと ○最小限の指導で生徒の主体的活動を保障する。 ○決して他者の意見を批判しないことを中心に、再三、ルールの確認をしながら各グループの活動の様子を観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の方法・ルールについて理解しようとしているか。【関心・意欲・態度】(観察) ○グループの一員として積極的に協力して活動しているか。【関心・意欲・態度】(観察) ○環境破壊の要因について多くの意見出し合い、絞り込んでいるか。【思考・判断】(観察)
		<ul style="list-style-type: none"> ○ランキングの発表 代表者が黒板にベスト3とオンリー1を記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループのオンリー1の意見にも注目させ、他者の意見についても考察を深めるよう促す。 	
まとめ	まとめと次回の予告	○各グループの意見を比較し、様々な要因があることを理解する。	○自分の最も興味をもった要因について、調べ学習を行うことを伝え、参考となるような資料の収集を予告する。	